オーディオ資料室収載

日本における音楽配信の現状

配信サイトの現状

下記参照資料「音楽祭の配信」と「配信サイトおよびその特性」のまとめからも分かるように日本のクラシックの配信状況はヨーロッパに比べて遅れている状況です。この他、音楽祭ではありませんが、ブゾーニ国際ピアノコンクールも配信されていますし、コンセルトヘボウもアーカイブの配信サイトを持っています。これらの状況に関して、以下にその理由を考察します。

参照資料：音楽祭の配信

参照資料：配信サイトおよびその特性

クラシックフアンの現状

コンサーに行ってみるとほとんど満席の状態ですが、聴衆はご婦人方と年配の男性がほとんどです。しかしながら音楽フアンが即オーディオマニアとは限らず、ましてや配信のディジタル技術には、ほとんどが、馴染みがないものと思われます。

オーディオマニアの現状

練達のクラシックのオーディオマニアは、アナログに特化した層が多く配信については偏見もあり、ディジタル技術にも馴染まない人たちが多いと思われます。しかも、クラシックの好きなオーディオマニアは、高齢化の一途をたどっており、雑誌の廃刊状況からみて、ジャズやロックについても例外ではありません。一方ディジタル技術に明るい世代は、アニソンやゲーム音楽志向に走っています。即ち、マーケット自体の問題があるように思われます。

パッケージメデイアと定額配信に対する志向

オーディオマニアは、アナログ盤や CD などのコレクター的傾向があり、これらを手元に置いておくことを好まれ、お仕着せの定額配信に抵抗感があることも事実です。クラシック以外の定額配信では、スマホなどで聴く若い層に受け入れられています、

NHK の問題

NHK のクラシック音楽放送は、BS103 のクラッシック倶楽部とプレミアムシアターおよび E テレのクラシック音楽館があります。また、NHK プラスの配信もありますが、地上波のクラシック音楽館だけで、BS 放送は対象外です。海外の配信とプログラムが重複する場合、放映権の関係から、ベルリンフィルやバイロイト音楽祭などの当該プログラムは、日本では配信を受けられません。こういった制約は時代の流れにそぐわないもので、早期に改善して欲しいものですし、BS 放送についても NHK プラスの配信が望まれます。

ネットワーク機器の対応

配信を受信できるネットワーク機器の場合、下記の事例でみてのとおり配信先は個々の機器で異なりますし、上記のような音楽祭などは対象外です。

https://online.stereosound.co.jp/_ct/17649027

PANASONIC のブルーレイレコーダーは、例外的にベルリンフィルディジタルコンサートホールを受信できますが、マニュアルがないなど、普及に本腰とは言えません。

したがって、汎用機器としては PC と LAN 機器に頼らざるを得ません。ベルリンフィルディジタルコンサートホールや STAGE+やコンセルトヘボウの配信は、PC と同様にタブレットや携帯でも受信でき、利便性が考慮されています。

LAN および PC の課題

上記のとおり、配信は PC とルーター、スイッチングハブなどの LAN 機器の使用が前提となります。しかしながら、これらはオーディオ機器として設計されていないので、音質確保には多くの課題があり、音質改善の手法は LAN の信号系に関して、海外製品の iFi の LAN iSilencer やイングリッシュエレクトリックの EE1 や光アイソレーションのアプローチがあるくらいです。

https://ifi-audio.jp/acc/lan_isilencer.html

https://www.andate-largo.com/products/ee1/

従って、本格的な導入のハードルに低い国産の配信用機器が望まれます。

オーディオジャーナリズムの課題

日本のオーディオジャーナリズムは、一部の定額配信についての解説はありますが、概して配信音源に冷淡です。ベルリンフィルディジタルコンサートホールや STAGE+に触れているのは、限られた評論家だけで、しかも音質改善のアプローチに関する情報はほとんどないという状態です。

配信プラットフォームの課題

ベルリンフィルディジタルコンサートホールを支えているのは配信の IIJ とハードの PANASONIC です。また KORG の LiveExtreme のような斬新なプラットフォームもあります。

https://www.live-extreme.net/about

しかしながらマーケットが成熟していない関係か、日本の配信市場で、これらの技術が活かされる場は少ないようです。

明るい兆し

名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団第 11 回定期演奏会のライブストリーミングのアーカイブ配信が公開されましたので視聴しました。

http://soundmedia.jp/20230811Live/

https://www.phileweb.com/news/audio/202308/21/24580.html

下記の添付資料記載のとおり、演奏者のみならず、エンジニアも学生が最新の技術を習得しながら、収録と配信を実践で習得していることは将来の配信の展望に期待が持てます。

参照資料：ライブストリーミングを楽しむ(52)

まとめ

上記のようにオーディオ愛好家の嗜好性、オーディオジャーナリズムの動向、オーディオ機器や PC と LAN 機器のような非オーディオ機器の音質改善手法の課題など、さまざまなミスマッチで音楽配信が停滞しているように思われます。こういった状況からのブレイクスルーが、オーディオ業界から生まれることを切に希望するものです。

以上

以上